

IEEE 1394ケーブル

IEEE 1394 インタフェース

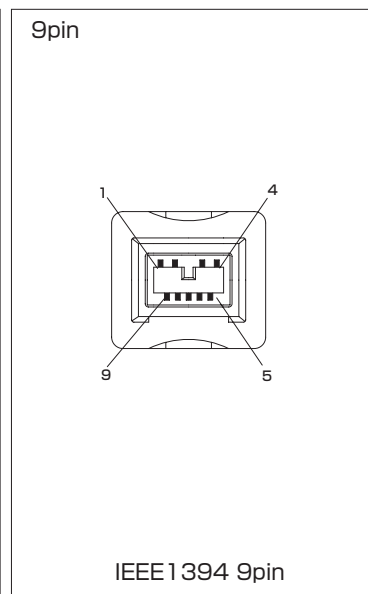
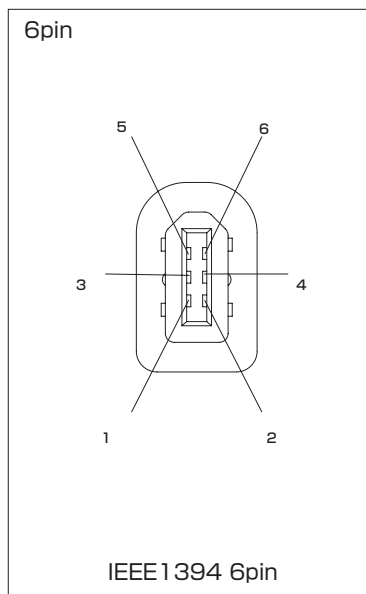
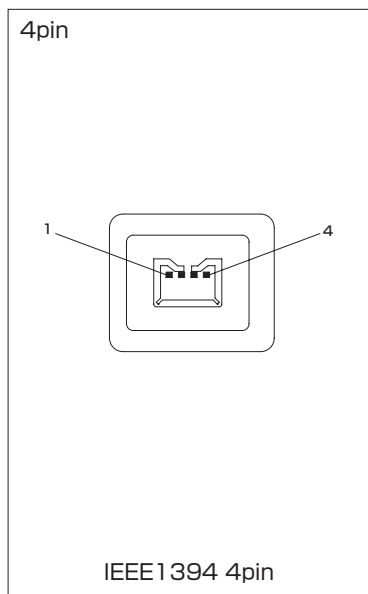
米国Apple社が従来のSCSI規格に代わる高速データ転送向けにファイヤーワイヤー（FireWire）の名称で開発したシリアルバスの規格で、IEEE（米国電気電子学会）がIEEE 1394として標準化しました。採用するメーカーや団体によって通称名で呼ばれることがあり、ソニーではi-LINKと呼んでいる規格もIEEE 1394です。

規格にはデータ転送速度100/200/400MbpsをサポートするIEEE 1394と、800Mbpsまでの転送速度とピア・ツー・ピア接続をサポートできるIEEE 1394bがあります。電源を切らずに接続ができるホットプラグ/プラグアンドプレイに対応しています。周辺機器の接続台数は接続方式により異なりますが、デジーチェーン型接続で最大17台、ハブ（HUB）を介してツリー状に接続する場合で最大63台まで可能です。各機器間の距離は最長4.5mまでです。

USB2.0よりも高速なIEEE 1394b（800Mbps）の登場で、CD、DVD、ハードディスクなどのドライブ類やデジタルカメラやデジタルビデオなどの映像・画像機器などの大量で高速なデータ転送を必要とする機器間の標準規格として普及が進んでいます。またUSBとは違い、ホストとなるパソコンを必要としないため、ビデオカメラとビデオデッキとを直接接続するといった接続も可能であることから、デジタル家電やIT家電の標準通信規格としても注目されています。

インタフェース用コネクタには、IEEE 1394用の4ピンと6ピンコネクタと、IEEE 1394b用の9ピンコネクタがあります（なお4ピンコネクタでは電力供給機能はサポートされていません）。通常は機器側コネクタにはメスコネクタを使用し、ケーブル側コネクタにはオスコネクタを使用します。

ピンアサイン



[4ピン]

ピン番号	信号名
1	TPB
2	TPB
3	TPA
4	TPA

[6ピン]

ピン番号	信号名
1	VP
2	VG
3	TPB
4	TPB
5	TPA
6	TPA

[9ピン]

ピン番号	信号名
1	TPA
2	TPA
3	TPB
4	TPB
5	Shield GND
6	VG
7	NC
8	VP
9	Shield GND